

**釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会**  
**再生普及行動計画ワーキンググループ(第13回) 議事要旨**

日時：平成20年4月24日(木) 18:30～19:40

場所：釧路地方合同庁舎 4階 共用第三会議室

**【出席者(敬称略)】**

**再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー**

＜個人(所属)＞

- ・ 清水信彦
- ・ 新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター)
- ・ 永瀬 知志

＜団体(出席者)＞

- ・ 釧路武佐の森の会 (大西英一)
- ・ 釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 (近藤一燈美)
- ・ 釧路市民活動センターわっと(成ヶ澤茂)
- ・ ボランティアネットワーク・チャレンジ隊(酒田浩之、佐竹直子)

＜関係市町村(出席者)＞

- ・ 釧路市 (環境政策課/菊地義勝)

＜関係行政機関(出席者)＞

- ・ 国土交通省釧路開発建設部治水課  
(流域計画官/山村諭、河川環境係/能代靖己、中津隆文)
- ・ 環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所  
(所長/北沢克己、国立公園・保全整備課/川渕義昭)
- ・ 林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター  
(所長/中島章文、自然再生指導官/白藤末人)
- ・ 北海道釧路支庁 (地域政策部環境生活課/大野美枝)

**再生普及行動計画ワーキンググループ事務局**

- ・ 環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原自然保護官事務所(露木歩美)
- ・ 財団法人北海道環境財団(久保田学、内田しのぶ)

**【議事概要】**

〈事務局〉第13回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WG」と表記)を開催する。(今回初めて参加したメンバーの自己紹介を行う。資料確認後、新庄座長による進行。)

**議事1 ワンダグリンド・プロジェクト2007の報告について**

〈座長〉資料について事務局からの説明を求める

〈事務局〉(資料1-1に沿って説明)ワンダグリンド・プロジェクト2007の報告は35団体・61取組みとなる予定である。(資料1-2に沿って説明)アンダーラインの部分が昨年

と変更した部分である。印刷部数について、北海道洞爺湖サミット関連のイベントが予想されるため 200 部増刷する予定である。報告書の様式について、サンプル 1 は「取組みのねらい」の部分について応募様式とそろえる形とし、サンプル 2 についてはワンダグリンダ・プロジェクトに応募するとどんな魅力があるかを伝え、少しでも応募者が増えることを期待して今回提案するものである。

〈座長〉資料 1-1 を見ると、関係団体の活動団体の活動のねらいは応募時と変わらないが、NPO や民間の取り組みは、やってみて新たなねらいに気づいたところもある。資料 1-2 で触れたように、今年は北海道洞爺湖サミットがあり、増刷して関連事業等でアピールしていきたいという提案があった。報告書の様式について、ワンダグリンダ・プロジェクトはこんな風に紹介されているということ伝えては、という提案があった。ご意見等あればお願いしたい。

〈委員〉ページ数の問題もあるが、サンプル 2 に加えて今年 1 月に行った赤沼ツアーについても触れてはどうか。

〈座長〉行動計画WGメンバー向けの行事だが、紹介してはどうかという提案である。

〈事務局〉先日の赤沼ツアーは行動計画WGメンバーで体験共有しようという目的であった。

〈座長〉行動計画WGメンバーが集って湿原でフィールドワークをした、ということはどこかで紹介できるような工夫をしてみてもどうか。

〈事務局〉検討したい。

〈座長〉大西先生が出演されているFMくしろでの（リスナーからの）反応はどうか。

〈委員〉反応はある。インターネットでも配信しているので、日本語のわかる外国人からも照会がある。

〈座長〉在住の外国人を対象に湿原を紹介する行事をやりたい、という話もある。

〈委員〉釧路市内だけでも 300 人が在住登録している。多くがアジアで韓国・中国の方が多いが、20 カ国くらいの方が居る。

〈座長〉ワンダグリンダ・プロジェクトを釧路在住の人々に宣伝すれば、いつか自国に宣伝してもらえる可能性もある。

## 議事 2 ワンダグリンダ・プロジェクト 2008 の応募状況について

〈事務局〉（資料 2 に沿って説明）新規応募者には★印がついている。今年は 4 団体・個人から新規応募があった。現在 35 団体・個人、56 取組みの応募である。今回の資料には入っていないが、これに加えてお菓子司の二幸さんより応募があった。

〈座長〉すでに 36 団体・個人、57 件の応募が来ている。ブログによる発信はこれからも広がるかもしれない。二幸さんはまんじゅうだけではなく、ツルの干菓子も置いていた。他にそんな情報をお持ちであったり、こんなところに声をかけたら、というところがあれば今後も情報をいただきたい。

〈委員〉FMくしろ「ゆうゆう湿原塾」を毎週やっているがネタには苦労している。是非そうした情報を提供してほしい。NHK よりも聞かれている数は多いのではないか。放送するとすぐ反応があり、ワンダグリンダ・プロジェクト等のお役に立てると思う。ぜひ

情報を送ってほしい。

〈事務局〉議事3で大西先生には別途お願いしようと考えていた。今年度からワンダグリンダ・プロジェクトのメールニュースの内容拡充を予定しており、そのメールニュースの内容をFMくしろで紹介いただけないかと考えていた。

〈委員〉大いに紹介していきたい。出演料はタダであるが、それでも構わない方にはぜひ出演もしていただきたい。

〈座長〉ぜひ活用させていただきたい。

### 議事3 今後の予定について

〈座長〉今後の話も出ているので、議事3について事務局から資料の説明を求める。

〈事務局〉（模造紙を使用して説明）模造紙は、前回の行動計画WGで皆様からいただいた意見をまとめたものである。いただいた意見をまとめてみると、大きくわけて3つあった。まずは広報する内容についてである。身近なちょっとしたことでもワンダグリンダ・プロジェクトに参加できることを伝えるなど、どんな内容を広報すればよいかということであった。二つ目は広報のためのツールである。イベントやグッズで周知すること、知名度調査アンケートを通して周知を図ることなどがあつた。三つ目は参加団体へのフォローについての意見である。これらを基にワンダグリンダ・プロジェクトとはなにか、もう一度考えてみた。釧路湿原における自然再生には全体構想があり、流域全体の自然再生を目標にしている。それに基づき実施計画が策定され、湿原の核心部分では行政の取り組みを中心に自然再生事業がはじまっているが、上流域などにはあまり着手されていない。しかし、屈斜路湖での水をきれいにする努力や農家の努力など、すでに行われている様々な取り組みがある。そうした取り組みをつないでいくネットワークが今はない。それをネットワーキングしていくことが、ワンダグリンダ・プロジェクトの大きな役割かと思う。ワンダグリンダ・プロジェクトはできる人ができることからやるのが旨。再生したいところに木を植えること、湿原そのものを再生すること、音探検のように湿原を感じることから始める活動、知識を学ぶことからアプローチして保全への関心を持ってもらう活動など、すでにさまざまな活動がある。ここに、流域全体で行われているたくさんの活動をつなげていきたい。現段階ではまだ繋がっている分野が限られており、ワンダグリンダ・プロジェクトや自然再生をもっと周知していく必要がある。そのためには情報に触れる機会をつくる必要があると考えている。こうしたことを踏まえて、新たに資料3のような取り組みを事務局で考えてみた。

（資料3-1に沿って説明）1つ目は、1月の赤沼ツアーのように湿原をより深く体験し共有するようなフィールドワークショップ開催の提案である。対象はワンダグリンダ・プロジェクト応募者、普及小委員会メンバーとし、参加者がそれぞれの活動の幅を広げより広く発信することを期待したい。2つ目に推進サポーター募集の提案である。ワンダグリンダ・プロジェクト応募者の裾野を広げるために、自然再生の資料やポスターをお店に置かせていただくなど、より多くの方々に周知すべく推進サポーターを募集し、

事務局から働きかけていきたい。はじめてみないとわからないが、自然再生を伝える人や場所を増やしていけば、大きな力になる可能性がある。3つ目に、これまでも実施してきた情報発信の強化を図りたい。例えば集中して周知活動を実施する強化期間を設定したり、メールニュースの内容についても自然再生事業に関わる方から寄稿いただくなど内容を拡充して配信していく。さらにこれらを、先ほど話題に出たようにFMくしろでも紹介していきたいと考えている。(資料3-2に沿って説明)資料3-2は、先程の提案やワンダグリンダ・プロジェクト2008として応募のあったイベントなどを表にしてみた。上段は再生普及小委員会、各種会議など主な行事予定を記載してある。先ほど提案したフィールドワークショップについては内容次第で時期を決めていきたい。情報発信については、事務局からのメールニュースやFMくしろでの発信に加え、市町村の広報誌や可能であれば「じゅう箱のすみ」にも取り上げていただけるとありがたい。下段は、今年応募されたワンダグリンダ・プロジェクト2008の各取組みの予定である。

〈座長〉ワンダグリンダ・プロジェクトの目的をレビューし、フィールドワークショップの開催、推進サポーターの募集、情報発信などを強化していきたいという提案である。これについて、提案やご助言があればいただきたい。

〈座長〉ワンダグリンダ・プロジェクトの目的は、これで明確になっている。私たちの回りには、湿原を守る人も関わって生活する人もいる。いろいろな接し方をして暮らしている人々がいる。そうしたことを意識しているいないにかかわらず、ネットワークを深めていきたいというものである。

〈委員〉(資料3-2について)くしろエコフェアは6/7、8が正しい日程である。7日の午後5時45分からはプラザさいわいでフォーラムをやる予定である。前斜里町長の午来さん、NPO法人霧多布トラスト理事長の三膳さん等をお招きし、コーディネーターは田丸先生である。

〈委員〉国立公園ボランティアレンジャーの会は、7月26日に20周年記念で環境省の吉中前次長を呼んで講演する予定がある。

〈座長〉吉中さんはカナダからの帰国時には着ぐるみをきて木道でインタープリテーションを行っており、大変ユニークであった。フィールドワークショップについては如何か。現場を見て、なぜ自然再生事業をすることになったのをみんながわかるようにやりたい。そして参加者の各活動のモチベーションがあがれば良いと思う。

## その他

〈事務局〉事務局で考えたことを提案させてもらったが、具体的な方法等があれば助言をいただきたい。

〈座長〉事務局にメールでもFAXでも直接話しにきていただいてもいい。みなさんのように具体的なアクションを起こせなくても、協力できる人がほしい。

〈事務局〉サポーターの方をお願いしたいことは、ワンダグリンダ・プロジェクトの募集チラシ、ポスター、メール配信申込用紙等をお願いしたいこと。他にもメールニュースをプリントして掲示してくれるところ、自然再生事業を紹介するパネルを展示、釧路湿原と

自然再生の話をすることもできるのでそうした機会もいただけるとありがたい。店舗の方などに協力をいただきたいと考えている。事務局だけでそれを広げていくことは大変。

〈座長〉事務局のサポートをよろしくお願ひしたい。フィールドワークショップについては今後、時期や内容を具体的に相談いただきたい。内容について希望があればお聞きしたい。

〈委員〉やちまなこに入ってみたい。

〈座長〉それもいい。かつては牛馬がはまっていたが今はない、というようなところも地元の人には知っている。それを私たちが知れば、自然再生事業の必要性の実感も湧くと思う。同様に、かつてここにイトウがいた、なども題材になると思う。

〈委員〉ウチダザリガニの駆除をみんなでやるのもいい。

〈座長〉ウチダザリガニを駆除したことがある方はいるか？（半数が挙手）これはすごいことかもしれない。食べたことはあるか。

〈委員〉岩保木水門や温根内のものを、茹でたり焼いたりして食べた。

〈座長〉ぜひ、そうした体験をご提案いただきたい。

〈委員〉大西先生のFMくしろでの出演について、参加団体にとっては大変いい宣伝になる。参加団体に出演のための条件を伝え、希望者は直接連絡できるようにしてはどうか。普通はお金を払って宣伝するが、無料で出演できるいい話である。

〈座長〉では、大西先生と事務局で出演条件ややりとり等について相談し、参加団体出演について検討してほしい。

〈委員〉毎週月曜日の 13:40～、76.1MHz で放送している。来週は温根内のヤチマナコの紹介に加え、今日の話にも触れたい。

〈座長〉では本日の議事は以上とし、進行を事務局にお返しする。

〈事務局〉連絡事項をひとつ。普及小委員会の「こどもエコクラブくしろ」が行動計画WGへの参加を希望しており、次回から参加する。他に情報提供などあれば。

〈委員〉今年も5月5日10時からMOOにて、サケの稚魚放流式が行われる。今年も3万匹の放流を予定。

〈委員〉座長の「今」の紹介をお聞きしたい。

〈座長〉今までどおりお手伝いするので、どうぞよろしく。天気がいいと湿原に出かけ、声がかかると相談に乗ったりしている。お金をいただいての仕事ではなく、遊びでどこへでもお手伝いに行く。

〈事務局〉これにて第13回行動計画WGを終了させていただきます。

以上